

# 一月例会

北澤先生を偲ぶ談話会

日時 平成二十七年一月十四日（水）

テーマ グローバル化時代の科学技術

― 国富と経済、安全の狭間で

講師 東京都市大学学長

北澤 宏一 氏



北澤 宏一 氏

## ■ 略 歴

1968年東京大学大学院修士課程を修了、1972年にマサチューセッツ工科大学博士課程修了。東京大学工学部教授、科学技術振興機構理事長、科学技術振興機構顧問などを経て、2013年9月より現職。専門分野は物理化学、固体物理、材料科学、磁気科学、超伝導工学。

特に高温超伝導セラミックスの研究で国際的に知られ、80年代後半、高温超伝導フィーバーの火付け役を果たす。2009年度応用物理学会業績賞を受賞。福島原発の民間事故調を立ち上げて要因を分析するなど、社会や経済の中での科学技術のありかたについて積極的に発信している。



北澤宏一先生は、平成26年9月26日に不帰の客とされました。

国際問題分科会では、先生の御生前のお志を体して、

第205回目として予定されていた分科会でのご講義レジュメをそのまま記録に残し、同日は、ご講義ご予定のテーマを軸とした「北澤先生を偲ぶ談話会」を開催させていただくことと致しました。

- ・日本は再生可能エネルギー大国になりうるか 北澤宏一著、ディスカパートウエンティオン (2012)
- ・福島原発事故独立調査委員会調査・検証報告書 福島原発事故独立調査委員会著、ディスカパートウエンティオン (2012)
- ・科学技術は日本を救うのか 北澤宏一著、ディスカパートウエンティオン (2010)

# 二月例会

日時 平成二十七年二月十九日（木）

テーマ 小国のイノベーション力を使う

講師 一橋大学イノベーション研究センター 特任教授

江藤 学 氏

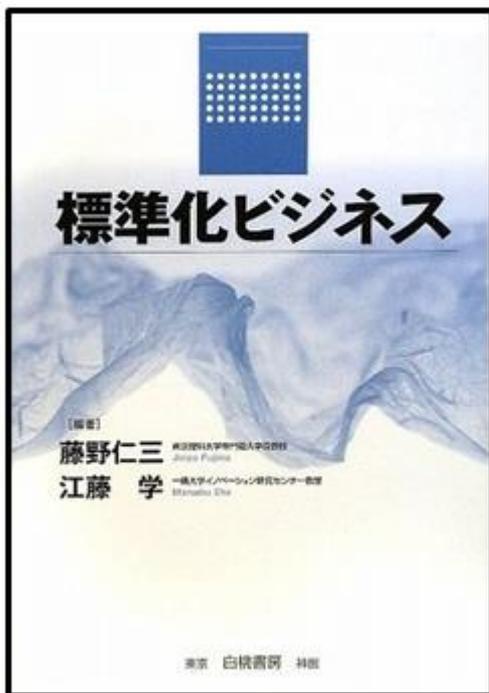


江藤 学 氏

## ■ 略 歴

1985年大阪大学大学院基礎工学研究科修了。同年、通商産業省に入省。経済協力開発機構日本政府代表部、産業技術総合研究所、経済産業省産業技術環境局認証課長、経済産業研究所コンサルティングフェローを経て、2008年一橋大学イノベーション研究センター教授。

2011年～2013年には日本貿易振興機構ジュネーブ事務所長を務め、2013年より現職。専門は、技術移転，技術マネジメント，標準化。



標準化ビジネス，白桃書房 (2009/12)

 Hitotsubashi University  
Institute of Innovation Research



一橋大学 兼松講堂

# 三月例会

日時 平成二十七年三月十一日（水）

テーマ 電子立国は、なぜ凋落したか

講師 技術ジャーナリスト

西村 吉雄 氏



西村 吉雄 氏

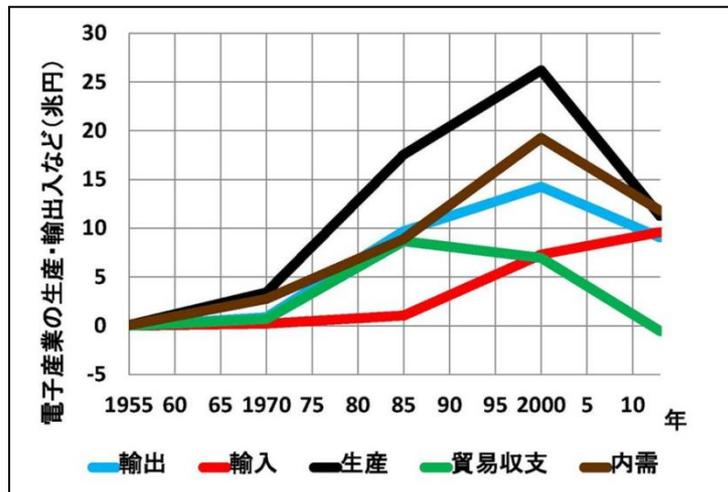
## ■ 略 歴

1971年、東京工業大学大学院博士課程修了後、日経マグローヒル社（現日経BP社）入社、『日経エレクトロニクス』編集長，同社発行人，調査・開発局長，編集委員などを務める。

2002年、東京大学大学院工学系研究科教授。

2003年に同大学を定年退官後、東京工業大学監事、早稲田大学大学院政治学研究科客員教授などを歴任。現在はフリーランスの技術ジャーナリスト。工学博士。

日経テクノロジーOnline コラム  
- 「電子立国は、なぜ凋落したか」より  
<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20131120/317532/>



日本電子産業の生産・輸出・輸入・内需・貿易収支の推移  
資料：経済産業省機械統計，財務省貿易統計



電子立国は、なぜ凋落したか，日経BP社  
(2014/7/10)

# 四月例会

日時 平成二十七年四月十三日 (月)

テーマ 欲望と消費の系譜

「イノベーションと消費との共進への示唆

講師 学習院大学 経済学部 教授

真嶋 史叙 氏



真嶋 史叙 氏

## ■ 略 歴

1998年、慶應義塾大学経済学部卒業。2005年、マンチェスター大学社会文化研究所専任研究員、2006年オクスフォード大学 社会経済史学科博士課程を修了しD.Phil. を取得。2007年より現職。研究分野は西洋経済史、経営史、

消費文化論、経済学史。特にイギリス近現代史を中心に研究を行っている。

## 真嶋教授研究テーマ

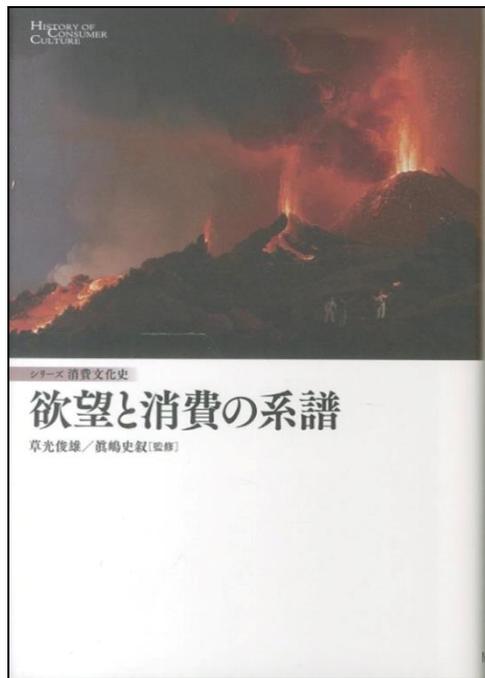
主にファッション・流行消費行動の問題に注目し、経済史の方法的な試みを探究し、新たな問題意識を開拓していくこと

## DISSOLVA

真嶋教授のゼミ生を中心とした国際フィールドワークプロジェクト



ボルネオ島ジャングルの村に滞在してのボランティア研修活動



欲望と消費の系譜 (消費文化史), 草光俊雄/真嶋史叙 監修, NTT出版 (2014/7/28)

# 五月例会

日時 平成二十七年五月十三日（水）

テーマ 技術革新と経済発展の循環と相関

講師 テクノ経済研究所代表

弘岡 正明 氏

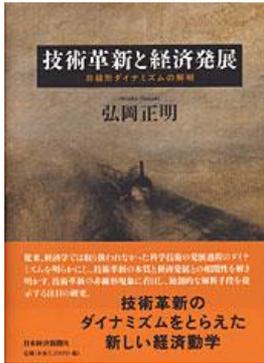
## 略歴

1954年、京都大学工学部工業化学科卒業。同年、住友化学工業株式会社入社。同社中央研究所首席研究員、中央研究所技術部長、研究主幹を歴任。1978年～1980年英国リバプール大学客員研究員。1989年住友化学を退社後、神戸大学経済学部教授、流通科学大学情報学部経済情報学科教授、同大学副学長を経て、テクノ経済研究所代表取締役。文部科学省科学技術政策研究所客員研究官、英国マンチェスター大学イノベーション研究所名誉研究員、ドイツ労働技術研究所研究フェロー。日本工学アカデミー会員。専門分野は高分子化学、技術革新経済学、産業技術論、科学技術政策論。1973年高分子学会・学会賞受賞。2010年ロシア科学アカデミー・コンドラチェフ経済学賞受賞。工学博士および経済学博士(京都大学)。

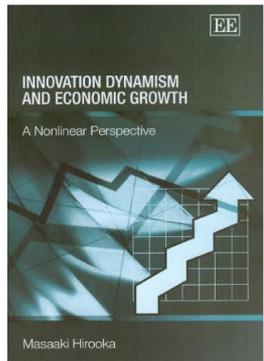


弘岡 正明 氏

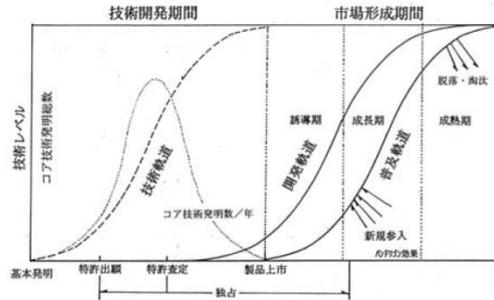
英国マンチェスター大学イノベーション研究所名誉研究員、ドイツ労働技術研究所研究フェロー。日本工学アカデミー会員。専門分野は高分子化学、技術革新経済学、産業技術論、科学技術政策論。1973年高分子学会・学会賞受賞。2010年ロシア科学アカデミー・コンドラチェフ経済学賞受賞。工学博士および経済学博士(京都大学)。



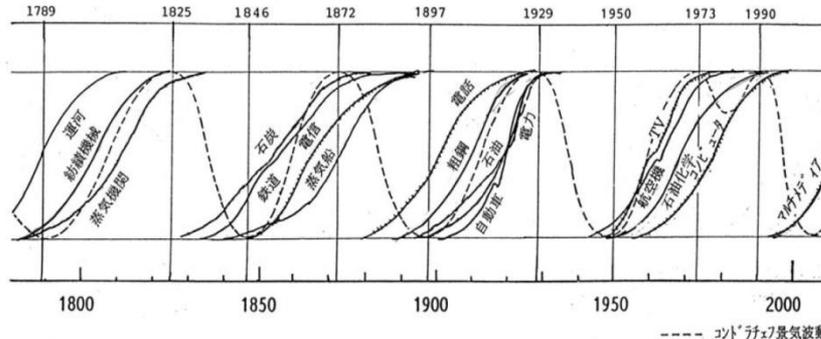
技術革新と経済発展 - 非線形ダイナミズムの解明 - 日本経済新聞社 (2003/06)



Innovation Dynamism and Economic Growth: A Nonlinear Perspective, Edward Elgar Publishing (2006/01)



イノベーションパラダイムの構成



出所: 弘岡正明「イノベーションの進化とメガサイクル」(2007)

基幹イノベーションの普及とコンドラチェフ景気波動

# 六月例会

日時 平成二十七年六月十七日（水）

テーマ 中国の科学技術の現状

講師 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー

林 幸秀 氏

## ■ 略 歴

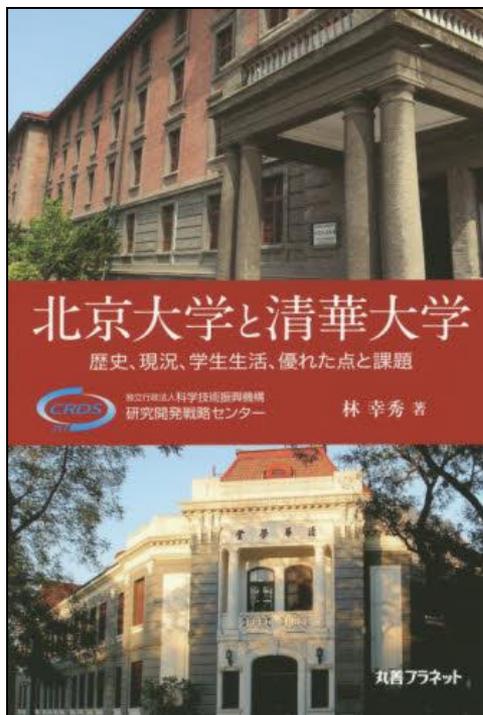
林 幸秀 氏

1973年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。1977年米国イリノイ大学大学院修士課程修了。1973年科学技術庁入庁。原子力、宇宙開発、海洋開発、科学技術政策などの業務に従事し、2003年文部科学省科学技術・学術政策局長、2004年内閣府政策統括官、2006年文部科学省文部科学審議官、2008年独立行政法人

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 副理事長を歴任。2010年9月より現職。2010年9月から2014年3月まで東京大学先端科学技術研究センター特任教授を兼務。



科学技術大国 中国 - 有人宇宙飛行から、原子力、iPS細胞まで, 中央公論新社 (2013/7/24)



北京大学と清華大学—歴史、現況、学生生活、優れた点と課題, 丸善プラネット (2014/10)

# 七月例会

日時 平成二十七年七月十五日（水）

テーマ 日本人の国民性調査とコウホート分析

講師 情報・システム研究機構 統計数理研究所 教授

中村 隆氏



中村 隆氏

## 略 歴

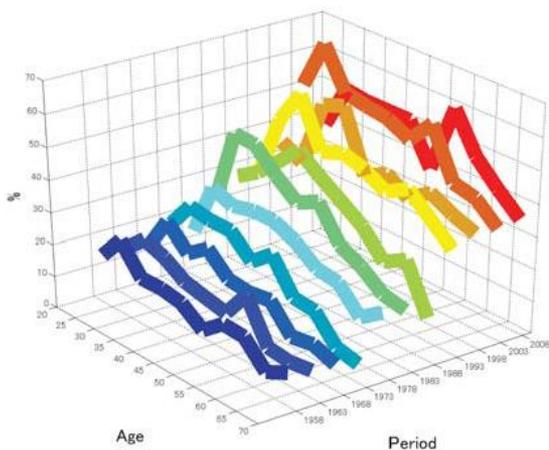
1975年東京工業大学を卒業。1977年同大学院修士課程修了。1979年に筑波大学大学院博士課程中退後、統計数理研究所に勤務。同研究所調査実験解析研究系、データ科学研究系で助教授を経て教授。2010年には統計数理研究所副所長を兼務。その他、総合研究大学院大学数物科学研究科助教授、文部省大臣官房調査統計

企画課分析調査官、総合研究大学院大学数物科学研究科教授等を歴任。専門は、統計数理、社会調査、標本調査。

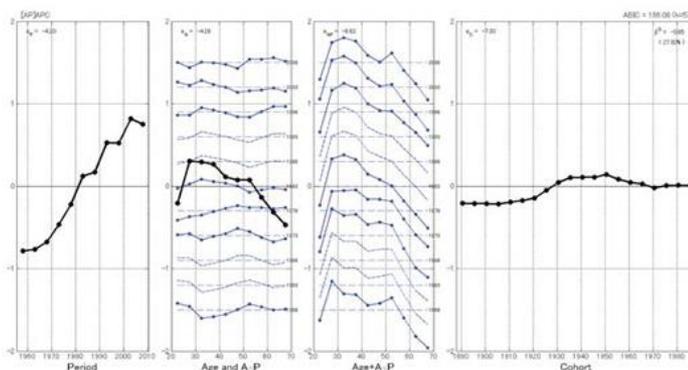
## 年齢・時代・世代の違いを探るコウホート分析

コウホート分析とは、継続調査から得られるデータに対し、ある時代流行が特定の世代の行動に与える影響（コウホート効果）について解析しようという分析法。

中村教授は、継続した調査データの中から時代、年齢、世代の影響を分離し、将来を予測することも可能とする「ベイズ型コウホートモデル」を開発。



女性の「一番大切なもの(家族)」の回答の推移



女性の「一番大切なもの(家族)」の回答割合とコウホート分析結果

# 八月例会

日時 平成二十七年八月二十六日（水）

テーマ **東西の接点 新進トルコの展望**

講師 東京大学先端科学技術研究センター

特任教授 **西岡 潔 氏**

イスタンブール(コンスタンチノープル)は東ローマ帝国、オスマン帝国の首都。ボスポラス海峡を挟んでヨーロッパ、アジア両大陸に跨る要衝の地

## 新進トルコの魅力

トルコは東西文明・経済交流の十字路口に位置し、経済・人口規模の大きい新興国（歴史があり、かつ発展する国）である。

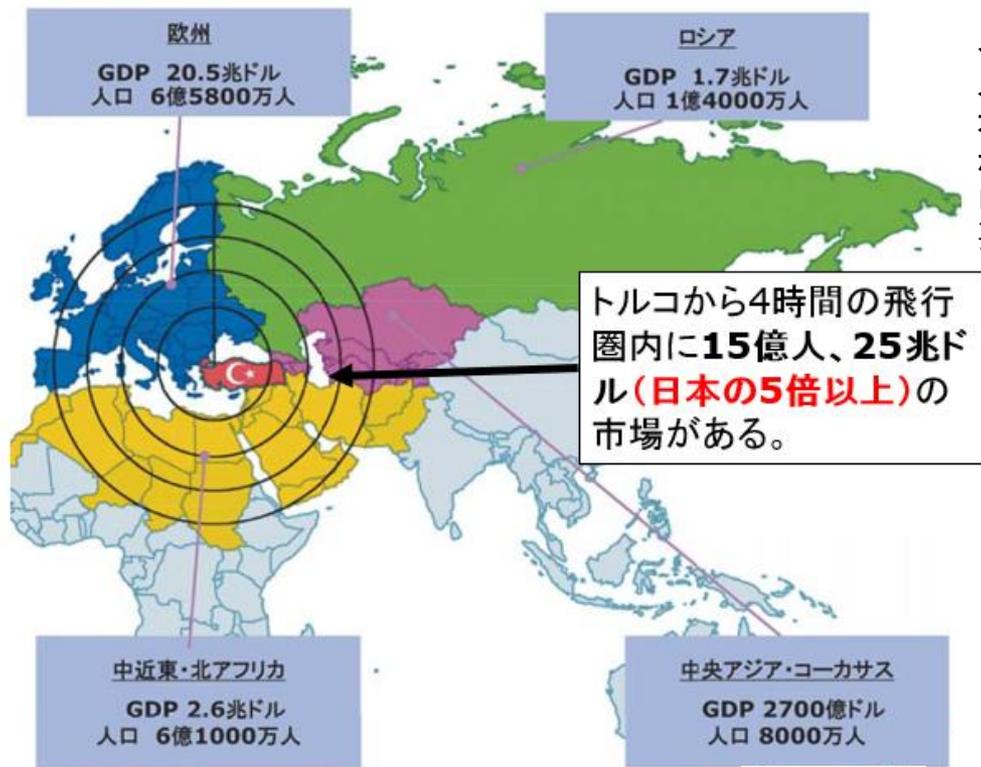
近年の経済成長は目覚ましく、一人当たりGDPは1万米ドルを超える。地政学的な優位性もあり、外資系企業数はここ10年で10倍（約4万社）となり、世界各国から熱い注目を集めている。

## ■ 略 歴

1977年大阪大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程修了。1977年新日本製鐵株式会社に入社。1883年英国ケンブリッジ大学留学。厚板、鋼管の研究、製造、全社技術企画を担当。1997年君津製鐵所厚板工場長（部長）、2001年本社厚板事業部部長、2005年取締役、

2009年顧問、2012年東京大学先端科学技術センター特任教授に就任。主たる研究分野は複合材料の開発と技術経営。2005年日本鉄鋼協会技術貢献賞受賞。2014年10月日本CTOフォーラムトルコミッションの一員としてトルコを調査。

西岡 潔 氏



出典：ISPAT

# 九月例会

日時 平成二十七年九月十六日（水）

テーマ 日本における共同研究の歴史的展開

講師 東北大学大学院経済学研究科 教授

平本厚氏

## ■ 略歴

平本厚氏

1973年東北大学経済学部卒業。1978年東北大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。博士（経済学）。

日本経済の特質の解明を研究テーマとし、日本産業の成長と国際競争力の要因の歴史的

実証的解明、技術革新と産業成長のメカニズムの研究、日本における大企業の形成過程の研究などを行っている。



日本におけるイノベーション・システムとしての共同研究開発はいかに生まれたか: 組織間連携の歴史分析, ミネルヴァ書房 (2014/12/25)



戦前日本のエレクトロニクス, ミネルヴァ書房 (2010/11)  
(中小企業研究奨励賞受賞)



東北大学

# 十月例会

日時 平成二十七年十月二十七日（火）

テーマ ネットワークと消費者行動

講師 明治学院大学 経済学部 准教授

齊藤嘉一氏



齊藤嘉一氏

## ■ 略歴

1995年明治学院大学経済学部卒業。1997年学習院大学大学院経営学研究科博士前期課程修了。2000年学習院大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得、日本大学経済学部専任講師。2003年博士（経営学）学習院大学、2006年

日本大学経済学部准教授を経て、2011年より明治学院大学経済学部准教授。主要研究テーマは、IT製品の普及と採用、消費者意思決定。



ネットワークと消費者行動, 千倉書房 (2015/1/10)



明治学院大学 白金キャンパス

# 十一月例会

日時 平成二十七年十一月十八日（水）

テーマ 計画の創発…経営史と組織論の架橋  
「サンシャイン計画と太陽光発電を軸に」

講師 一橋大学 商学部・大学院商学研究科 教授

島本実氏

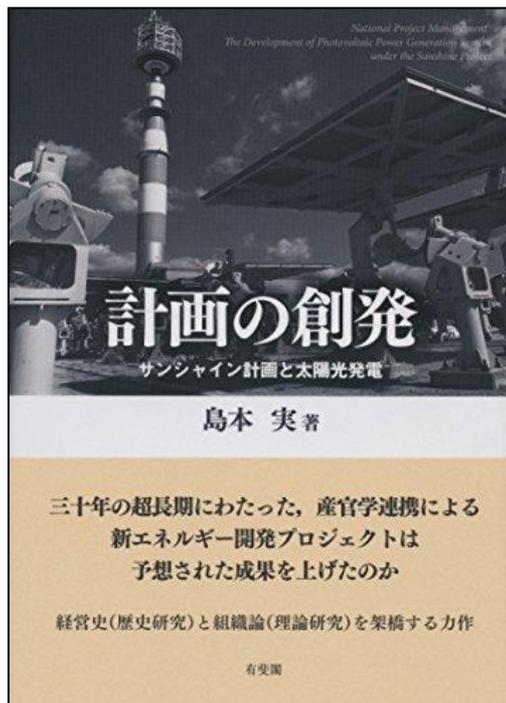
## 略歴

1994年一橋大学社会学部卒業。1999年同大学院商学研究科博士課程修了。一橋大学博士（商学）。2003年～2004年、ハーバード大学客員研究員。2004年より現職。研究上の関心はイノベーションの経営史・政策史にあり、具体的には、再生可能エネルギー、ファインセラミックス、バイオテクノロジーなどにおける産官学連携を通じた組織的な新技術・新産業創出プロセスの歴史的解明を研究テーマとしている。

島本実氏



は、再生可能エネルギー、ファインセラミックス、バイオテクノロジーなどにおける産官学連携を通じた組織的な新技術・新産業創出プロセスの歴史的解明を研究テーマとしている。



計画の創発, 有斐閣 (2014/11/28)



一橋大学商学部・大学院商学研究科



一橋大学 兼松講堂 (国登録有形文化財)

# 十二月例会

日時 平成二十七年十二月二十一日(月)

テーマ 人材の国際移動とイノベーション

講師 早稲田大学 政治経済学術院 教授

村上由紀子 氏

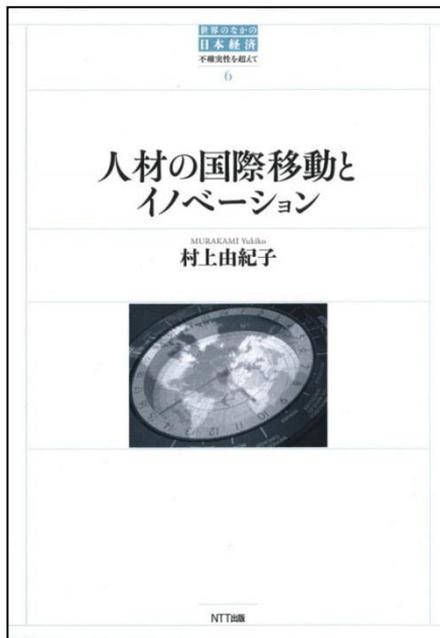
## ■ 講師略歴

早稲田大学大学院経済学研究科修了。大阪外国語大学専任講師、早稲田大学助教授を経て現職。

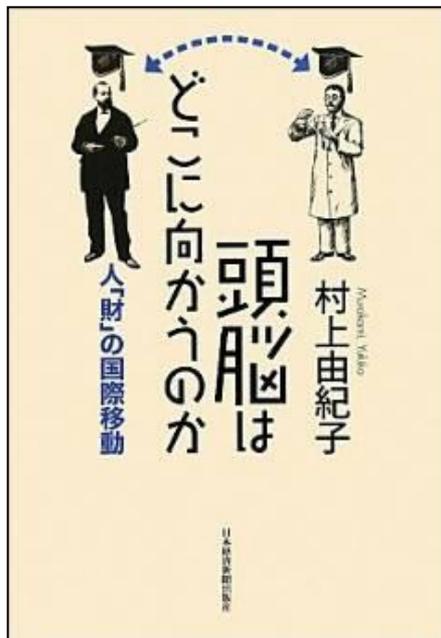
その間、カリフォルニア大学バークレイ校・オックスフォード大学・マサチューセッツ工科大学の客員研究員等を務める。

専門は労働経済学。博士(経済学)。

## ■ 講師著書



人材の国際移動とイノベーション, NTT出版 (2015/2/24)



頭脳はどこに向かうのか, 日本経済新聞出版社 (2010/5/15)



技術者の転職と労働市場, 白桃書房 (2003/09)